

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭の延長線上の介護をめざし、その人の尊厳を大切に、やさしさと思いやりを持ち、安心して暮せるよう努力すると共に、その人の自立支援を目指していく理念としている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝礼時勤務者一同、理念を一読し、意識づけをして仕事に取りかかっている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や地域の方々に理念を理解していただく為に、玄関正面に理念を掲示し、家族の面会時などに伝えている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの周りの環境もあるが、地域の行事、又施設の行事等を通して、参加を呼びかけ日常的な呼びかけが出来るよう努めている	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の行事、施設の行事お互いに招待し合い交流に努めている。	<input type="radio"/> 地域との交流を深めるための取り組みの一環として、まず地元の方を施設に招き、施設を知ってもらうため1日過ごしてもらう計画をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	随時地域の方々から、認知症の介護等相談、実習生の受入等は積極的に行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回外部評価の結果は、職員会議等で報告し、指摘事項について改善に向けて努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会で意見を聴き、その意見を参考にサービスの向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は密にしているが、共に運営についてまでの取り組みはしていない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について全体会議等で説明し、利用者の家族等にパンフレット等で説明しているが今までに対応が必要とする利用者がいなかった。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の勉強会。尊厳について朝夕の引継ぎ等の報告で常に注意している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は重要事項に基づき料金等の説明、特に解約時は充分家族または身元引受人と話し合いを行い、不明な点は、何時でも受けれる体制をしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2月に1度職員と利用者との懇親会を設け、利用者の意見を聞き、介護に活かしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来園時に近況を記録より説明すると共に、利用者の近況報告の形で、預かり金、身体状況等を年3回文章で報告している。	○ 家族が遠方の方には、近況報告の中にご利用者の方の写真を入れて送付するようにしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に職員はお話を聴く状況を作っている。家族からの意見等については、職員連絡帳に記載し解決すべき状況があれば、直ぐに職員会議を持つようにしている	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の意見について会議時、個人面接、または日頃からコミュニケーションを図るよう常に心がけをしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態等に対応できるよう柔軟に勤務の調整は行なっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が変わった場合は、利用者に職員の性格、持っている資格等、利用者が気軽に安心して話せるよう紹介をしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあつたては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>	採用に関しては、職業安定所からも指導が有り偏見等は持っていない。又職員の人権は保障している。	
20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	毎年年度当初職員全体会議で、虐待防止マニュアルの基、人権等言葉使い勉強会を行なっている。	
21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人全体の勉強会、上司のアドバイス、参考資料等で研修をしている。また、他の事業所で開催される研修に極力参加するようにしている。	○ 出来るだけ、職員全員が参加できるよう、外部より講師を招き、接遇、口腔ケア等の勉強会を行なう。
22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	同業者との交流は、市主催の福祉祭りに共同参画し交流に努めている。同業者の勉強会にも参加している。	○ グループホーム宮若の定期的研修会に参加し、同業者と意見交流をしている。
23	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員の健康面、ストレス等について、日常や面接時に把握し、職員同士の人間関係、介護に関する悩み等改善に向けて努力している。	
24	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	利用者の日々の状況等に対応している職員に対して言葉かけ、特に処遇困難な事例に対応できたときの評価を伝えている。資格取得にも支援を行い職場で活かせるようにしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用について相談があった場合、本人または家族の意向を聞き、施設を見学してもらい、話を聴くようにしている。	
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学時、本人と別の席で家族の希望、意向を聞きその家族の思いを把握するようにしている。	
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時利用者、家族の要望、状況を確認し、改善に向けたサービスがないか提案をしている。	
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人の納得より家族の方が切羽詰まった感じで殆どの方が入所されるため、園での生活に早く馴染めるよう食事形態、好き嫌い、性格、昔の仕事、趣味等事前に聞き、家庭との差がおおきく出ないように会話をもちながら援助している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	梅干、漬物つけ等利用者から生活の技を教えてもらったり、地域の慣習等教えてもらう場面が多く持てるよう工夫や声かけに配慮している。	
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、利用者の日々の暮らし中の出来事や気づいたことを家族に伝え、家族の方と共に介護をしていくことを伝えている。	
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	お互いの思いを受け止めて、共に過ごせる時間(行事等の参加)がつけられるよう働きかけを心がけている。	
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の方の訪問、共に外出して食事をする等、家にいた時と同じような交流が出来るよう支援に努めている。	
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の相性、身体状況、認知度等職員は把握し、食事の席等利用者間関係がうまくいくよう働きかけている。	
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所時には、園でなにかお世話できることが有る場合は気軽に声をかけてください等退所後にも何時でも相談に乗れる体制は整えている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が何をしたいか、日々のかかわりの中行動や声かけ、言葉の中で把握するようにしている。	
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴、趣味等は聞いているが、日常生活の中で折に触れ聞いている。	
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人一人の暮らし方や生活リズムを把握し、可能性を見出すよう支援している。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人一人の出来ることを把握し職員全員での意見交換をして、個別計画を作成している。	○ 職員全員がその方のプランを理解し、統一介護ができるよう個別介護記録表にケアプランを添付している。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	プラン作成後、状態の変化が見られたら、職員、家族の意見を聞き情報集を行ないながら、プランの変更をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別介護記録をもとに、介護計画の見直しに活かしている。	○	毎月の処遇会議で話し合いを行い介護計画の見直しの是非を検討している。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が遠方で宿泊を希望された場合、ご利用者の方の部屋で宿泊できるよう配慮している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	併設施設で在宅介護支援センターがある関係上、民生員、消防署等の関係機関とは常に連携を取っている。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人が今まで居住していた地域の婦人会、地域の行事等を通し会話を見出し、園に訪問してもらったり、ボランティアへの協力を要請している。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの協力を得ながら、GHみやわかの勉強会でお互いの情報交換を行なっている。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医である。家族同行の場合は日頃のバイタル、身体状況等の記録のコピーを持参してもらい情報が的確に伝わるようにしている。受診後の結果についても必ず報告を受ける体制を取っている。	○	家族、本人の希望がある場合は今までのかかりつけ医を継続できる体制でいる。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>病状の変化等ある場合電話でも相談できるよう、又往診時では、利用者の話をよく聞いてもらっている。</p>
47	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>日々のバイタルチェック、睡眠、排泄、食事量の観察を通しご利用者の変化を見逃さないよう支援している</p>
48	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
49	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>看取りについて検討をしている。主治医、看取りを希望されているご家族には対応できるようにはしているが、ご家族のご意向が変わることもあるので、家族の意向の確認、その時々々の病状、看取りの段階なのか、医師の指示を待つとしても判断が難しいと痛感した。</p>
50	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>現在重度者の方の介護を実践しているが、職員が統一した介護ができるよう常に日々の状態等連携を密にして、その方の尊厳を大切に、主治医の指示の元介護に当たっている。</p>
51	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>他の事業所に移つられる場合は、ケアプランや支援状況、服薬名、支援状況を渡し情報交換を行なっている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	処遇会議等事あるごとに言葉使い、尊敬の気持ちを忘れないように指導していると同時にプライバシー保護にも努めている	○	接遇の研修会を外部に依頼し、言葉使い、対応等研修会を行い職員の質の向上に努めていきたい
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の希望や嗜好を把握し、利用者が自分で選べるよう(買い物等)又、本人が希望するクラブ活動を支援している。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	園の生活の流れの中で、決して無理強いせず、一人一人の状態、ペースに合わせた柔軟な対応をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎日の洋服は基本的に本人の好みで決めてもらっている。特に行事参加時はおしゃれに心がけている。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付け等その人の能力に合わせて職員と一緒にできることはしている。また季節の野菜の収穫時は、共に収穫し調理そして楽しく食す。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	特に食の進まないときなど、本人の好みに合わせて好きなものを食べていただく。嗜好については、タバコ、おやつ等日常的に本人の状況に合わせて楽しめるよう支援している。	○	飲み物、おやつ、副食等ご利用者の食べたいものをいつでも食べれるよう、買い置きをしたり、職員がすぐ買い物に行く等支援している。(近隣にお店がないため)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録のもと、個別の排泄パターンを把握しながら、トイレ誘導している。	○	各居室にトイレがあるのでその人の習慣づいた排泄パターンで排泄介助を支援している。
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日の設定はあるが、本人の体調、入りたくない日は、決められた曜日ではなく柔軟に対応している。	○	2ユニットであるのでユニット毎の入浴日の設定を活かし、入浴は柔軟に対応している。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は出来るだけ起きて頂き、夜の睡眠が取れるようにしている。夜間の不眠がある場合できるだけ早く睡眠パターンのリズムを取り戻せるよう援助している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の得意な人、漬物漬けの経験のある人から指導を受けたり、草むしりの得意な人などその人の過去の生活から得意分野が発揮できるよう生活援助している。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの安心感から小額のお金を所持してもらっている。毎週園に外商でお菓子等を販売してもらっているのでその時に自分の財布から支払いをしてもらっている。	○	散髪代、お菓子屋等の支払ができる人は、自分で支払が出来るよう支援している。
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣に店がないため、毎週日曜日交代で好みの店に買い物に出かけている。又四季折々季節感を味わっていただく為の外出支援をおこなっている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の希望を聞き身体状態に合わせて近隣であれば職員の対応で実現しているが、外泊が伴う場合等は家族に協力を依頼し、支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮して電話の取次ぎ、手紙の代読、年賀状等希望を聞き個別に支援している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	遠方の家族が見えたときなど気軽に泊まれるよう、又日常の面会時にも気兼ねなく過ごせるよう配慮している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、常に法人全体で勉強会を持ち、毎月、身体拘束は「しない」事を確認している。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人一人の利用者のその日の状況を常に職員全員が把握し、自由に過ごせるよう配慮している。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	必ず職員は、利用者の目の届く範囲にいるようにし、夜間については最低1時間毎の見守りを励行している。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬の管理、台所の刃物、洗剤等保管管理の必要なものについては夫々安全に管理している。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	昨年4/8の20:10分利用者が離園され今だ見つかっていない。それ以来さらに事故防止に努めている。	○	地域包括支援センターが中心で徘徊ネットワークづくりが発足した。過去の経験を活かし積極的に参加をするようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時、事故の対応としてのマニュアルを作成し、医療機関、家族、消防署との連絡体制は整えている。蘇生術の研修は消防署の協力を得て行なっている。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は夜間、昼間年2回、地元消防団、消防署の指導のもと行い協力を得ている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者精神状態、身体状況等常に報告し如何したら本人にとって良いかを話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、喫食状況等の記録から本人の日頃の状態に変化が見られたら状態観察を密にするのと受診の必要性が見られたら受診、家族への連絡と迅速に対応している。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は受診の際に薬の処方について確認し、受診ノートに記載、家族受診の場合も処方箋の確認をすると共に個別の薬ケースで管理して職員が把握出来るようにしている。状態変化がある場合は主治医に連絡をして対応している。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便観察をしながら便秘症の方にはヤクルト、食物繊維物の提供等また水分量のチェックをするなど便秘に対する対応をしている。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きは自分で出来る人は自分で出来るところまでしてもらい磨き残しは介助しながら口腔ケアを行なっている。	○	協力歯科医から口腔ケアの研修を受け、口腔マッサージ等唾液の分泌を促すなど毎食後の口腔ケアに取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食事摂取量、水分量は毎食記録している。摂取量が低下した場合は、栄養士指導のもと好きなものを食べてもらうとか高カロリー食で補うなど配慮している。	○	毎食の喫食、水分量が把握できるよう記録に残し、個人の栄養状態が把握できるようにしている。
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策委員会を設置し、常に感染症対策に努めている。又マニュアルに従い職員一人一人が感染源にならないよう又来園者の協力を得ながら取り組みをしている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の管理は、感染症対策と同じように調理用品の衛生管理、夏場の生ものの持ち込みは家族の協力を得て遠慮してもらうなど個人の食べ物の保管についても利用者と話し合いながら管理をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には花、木などを植え、簡単な菜園が出来るスペースを取る等工夫している。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は十分な広さがあり、そこにはソファ等を置いてテレビ観賞をしたり、ゆったり会話をしたり、洗濯物をたたくなど出来るよう工夫している。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の一角に個人専用の机を置いたり、気の合ったもの同士座れるソファ等を置いてテレビ観賞をしたり、ゆったり会話が出来る工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、個人の箆笥、テーブル等好みのものを置き、自分の部屋で安心して過ごせるよう配慮している。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室、居間の温度、湿度、換気には気配りを常にしている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで、手すりは必要箇所に設置し自立支援に向けて対応している。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室のベット、箆笥の位置は、本人の状態に合わせて配置し入り口の暖簾等本人のわかりやすい物をかけている。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外まわりのフェンスに植木鉢の花を置いたり、玄関先にベンチを置き庭の花を眺めながら日向ぼっこをするなど工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

利用者重度化に伴い訴えが出来ない方がほとんどである為、利用者の表情、喫食状況、睡眠が取れているか判断しながら記録をしっかりと残り日々の健康管理に努めている。